

# 一般社団法人ホールフード協会とのコラボレーション実施報告の件

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会  
東日本支部プロジェクトチーム

## 1. 概要

VE 協会では、2014 年度に VE 普及活動の一環として、近年注目を浴びている一般社団法人ホールフード協会（以下、WF 協会）に対し、VE 協会とのコラボレーションを提案し、その活動を実施した。WF 協会は、『食を通して健康・暮らし・地球環境を考える新たなライフスタイルを実践すること』を理念に、ホールフードの考え方を普及させている組織で、近年メディアを含め幅広い注目を集めている。一方で、注目度の急激なアップにより繁忙を極め、事業推進の課題対応に追われていた。コラボレーションでは、WF 協会の事業課題の解決手段として VE 活用の有効性を紹介し、WF 協会の職員を集めてワークショップセミナー（以下、WSS）の開催を行った。本報告では、コラボレーションの活動報告と共に、WSS の内容を紹介する。

## 2. コラボレーションの目的

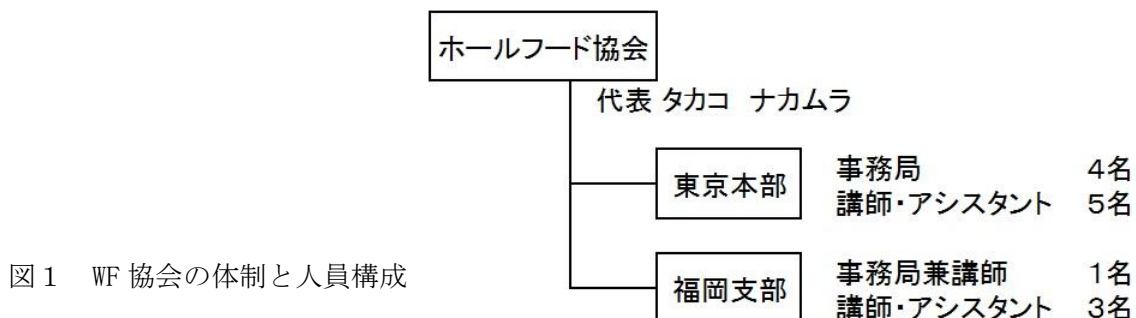
本コラボレーションでは、幅広い分野への VE 普及の一環として、WF 協会が直面する課題に対し VE の手法を適用し、WF 協会の事業支援を行った。同時に、VE 協会として、経験の少ない事業分野に対し普及活動を行うことで、WF 協会から意見を貰い、本経験を今後の新分野への VE 普及活動に展開することを目的とした。

## 3. WF 協会について

Whole Food とは、『食と健康と暮らしと環境を考える新しい考え方を表現する言葉』で、WF 協会では、その考え方を『メーカー・生産者から消費者、そして行政まで広く普及させること』をミッションとして活動している組織である。運営体制は、図 1 に示す組織で構成されており、以下に示す 5 つのミッションを掲げ業務を遂行している。

- (1) 資格認定制度の実施
- (2) 情報公開の推進
- (3) セミナー・勉強会の開催
- (4) 生産現場の体験ツアーの企画運営
- (5) 会員交流の促進

業務のウェイトは、従来から (1) (3) に示される WF の考え方を普及するための各種スクールの開催とその資格認定にウェイトが置かれていた。しかし、近年 WF に関する注目度が急激に高まることで、メディアへの情報発信をはじめとして、その他ミッションの様々な業務の企画運営が求められてきた。



#### 4. コラボレーションの活動内容

##### 4. 1 段階別活動の分類と推進体制

コラボレーションの推進は、下記4段階に分けて行った。

###### (1) コラボレーションの企画提案

- ・WF 協会およびWF に関する調査
- ・WF 協会関係者からのコラボレーションの可能性に関する事前ヒヤリング
- ・具体的活動案の企画
- ・WF 協会へのコラボレーション提案

###### (2) WSS 計画

- ・WF 協会の課題選定
- ・WSS の目的設定
- ・WSS の準備

###### (3) WSS 実施

- ・VE の基本講習
- ・WF 協会課題に対するセミナー実施

###### (4) 活動後のフォロー

- ・WF 協会のフォローおよび活動の反省会実施

(1)から(3)の活動推進にあたっては、東日本支部よりメンバーを選抜し、VE 協会事務局スタッフとチームを組み行った。メンバー構成は、活動段階別に表1に示す体制で進めた。

表1 活動段階別メンバー構成

活動段階	VE 協会事務局	東日本支部
(1) コラボ企画提案段階	5名	4名
(2) WSS 計画段階	1名	2名
(3) WSS 実施段階	2名	
(4) 活動後のフォロー	随時	

##### 4. 2 活動スケジュール

図2に活動スケジュールの実績を示す。なお、今回の経験を今後の活動に繋げるために、WSS 実施後に WF 協会の状況をフォローし、約1か月後に反省会を開いた。

活動段階	2014年						2015年				
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
(1) コラボ企画提案	コラボ提案検討			◎	コラボ提案申し入れ		◎				
(2) WSS 計画							詳細計画		準備		
(3) WSS 実施									3/16, 17	◎	
(4) フォロ、反省会									反省会		◎

図2 WF 協会とのコラボレーション推進実績

## 5. WSSについて

### 5. 1 テーマの選定

今回のコラボレーションでは、WF 協会の持つ課題に対し VE の手法を適用し、業務の改善と共に VE の有効性を認識して貰うことにポイントを置いた。その課題の抽出では、WF 協会の注目度が急激に高くなったことで、以下に示す様な業務上の問題が拾い出せた。

- ① WF 協会の事業体系が担当者に十分に見えていない
- ② WF 協会スタッフの業務体制が整理されていない
- ③ 各業務の位置づけ（目的）が担当者に見えていない
- ④ 各人の業務の関係性（前工程、後工程等）が見えていない

以上の問題点から、WF 協会の事業を機能として捉え、それら事業に伴う業務を機能系統図で整理することを提案した。提案においては、機能定義の考え方を理解してもらうため、事前に WF 協会の事業を分析し、機能系統図を用いて推定される事業体制を分かり易く示した。図3に、その際に作成した資料を示す。ここでは、WF 協会からのヒヤリングの情報とホームページ内容をベースに VE 協会側で作成したため正確なものではなかったが、業務を機能系統図で整理することの価値は十分に伝えることが出来た。これにより、WF 協会スタッフ全員から事前に業務の拾い出しを行い、それら業務をWSSにて機能系統図に纏めることとなった。

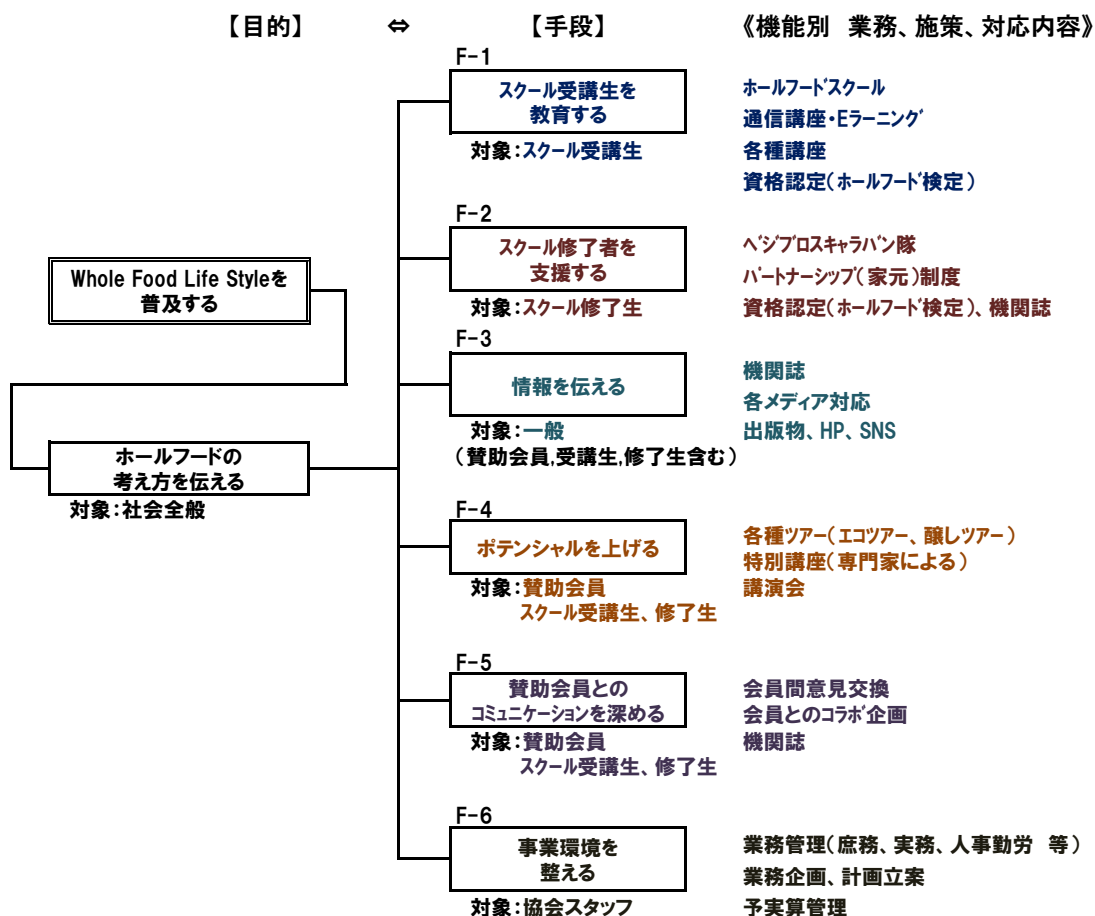


図3 WF 協会業務の機能系統図および機能別業務（事前検討）

## 5. 2 WSS実施内容

### (1) 事前準備

WSSに向けて事前にWF協会スタッフの業務内容の提出をお願いし、それに基づきプロジェクトのメンバーで、提出された業務を機能表現し機能カードを作成した。その結果、協会の会長を含め14名の方々から200を超える業務が提出され、重複する業務も多くあったが全てをカード化した。なお、カード記載内容は、以下の項目とした。

機能：アンケート調査結果に基づきプロジェクトサイドで機能表現

構成要素：ここでは、各人の業務目的や業務対象を記載

地区：所属を明記（東京 or 福岡）

担当：業務を、講師/アシスタント、事務、その他の3つに分類

作成した機能カードの一部例を図4に示す。

機能 P2		機能 P1		機能 P2	
<b>講座を準備する</b>		<b>撮影をアシストする</b>		<b>スケジュールを確保する</b>	
構成要素	地区・担当	構成要素	地区・担当	構成要素	地区・担当
基礎コース/単発講座	東京・講師/アシスタント	本・雑誌の撮影	東京・その他	講座計画	福岡・講師/アシスタント

図4 作成したWF協会業務の機能カード例

### (2) WSS実施内容

WSSには、東京、福岡からはほぼ全員である11名が参加し、2つのチームに分けて、以下のスケジュールで実施した。

#### ホールフード協会様 VE講習ワークショップ スケジュール

1日目		2日目	
時間	内容	時間	内容
10:00	ナカムラタカコ先生あいさつ 参加者自己紹介	9:30	1日目の復讐
10:20	VEの考え方を全員で認識 事例を用いて、学習及びディスカッション 機能系統図についての学習	9:45	主要業務の機能分析 (グループ毎活動)
12:00	(昼食)	12:00	(昼食)
12:45	WF協会テーマに関するWSS 協会の業務全体を体系的に見える化 ・A,Bグループに分かれて業務整理	12:45	機能系統図の作成 グループ毎に発表(発表:10分 討議:10分)
15:00	(休憩)	15:00	(休憩)
15:15	・業務の種分け(グルーピング) ・業務を機能と捉えて整理し、業務体系を確認 ・各機能(業務)と協会の「Mission」との対比 ・全体まとめ・機能系統図での見える化	15:15	講評および全体まとめ (講師)
16:30	1日目終了	16:00	所感 (ナカムラタカコ先生)
		16:15	終了

事前の調査によると、図3に示す『スクール受講生を教育する』に関係する業務の占める割合が非常に大きかった。そのため、初日の午後からは、対象をこの業務に絞って機能系統図を作成した。ここで最初に受講生の教育に関する業務に絞ったことで、機能を目的と手段で捉えることや、上位下位の関係を整理することが解り易く理解出来た様であった。

次に、その他の機能カードについても機能別にグルーピングを行い、WF協会全体の業務

に関し機能系統図の作成を行った。写真1にWSSで纏めた機能系統図を示す。

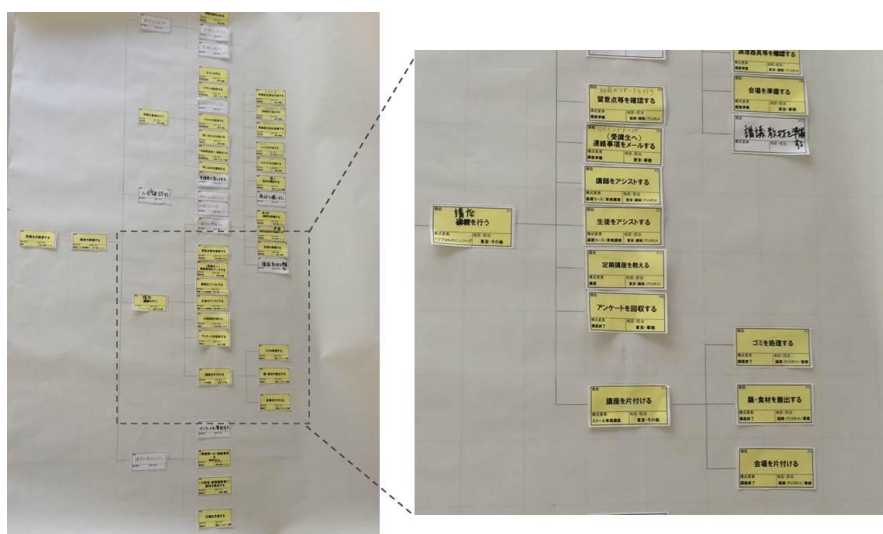


写真1 WSSで作成した業務の機能系統図

## 6. まとめ

VE協会とWF協会のコラボレーションの活動としてWSSを実施し、VEの基本を講習すると共に、機能定義の手法に基づきWF協会の業務体系の整理を行った。以下、その成果と課題について示す。

### 6.1 コラボレーション活動の成果

#### (1) VEを知らない組織へのVE普及の有効性を確認

今回は機能定義に絞ってWSSを実施したが、引き続き代替案作成まで学びたいとの要求も複数得られた。これら要望も含め、受講者の感想やWSS後のWF協会の業務改善の動きから、受講者が想像以上にVEの有効性を理解したことが分かった。そこに至ったポイントとして、以下の事項が挙げられる。

- ・WSSのテーマを参加者全員が認識する課題とした
- ・WSSを実業務の機能系統図作成に絞り、そこを討議しながら深掘りした
- ・VE実施手順を短時間で解り易く説明し、WSSのアウトプットの位置づけを認識させた

#### (2) WF協会賛助会員へのVE普及の可能性を確認

WF協会の賛助会員の多くは、様々な経営課題を抱えWF協会へ相談を持ち掛けている。WF協会では、今回のコラボレーションの内容と成果を賛助会員へ紹介するとのことで、VEの知名度向上と共に賛助会員へのVE普及の可能性も生まれるものと考えられる。

#### (3) 新規業界へのVEの有効性を確認

今回、VE活用の実績が多い製造業や建設業等とは全く異なるサービス分野を対象としてVEの普及活動を進めたが、想像以上にVEの考え方やその手法の有効性を認められた。このことは、新規業界へのVEの有効性を確認すると共に、今後の幅広い分野へのVE普及活動の参考になるものとする。

## 6. 2 今後の課題

活動を通して挙げられた今後の課題を以下に示す。

### (1) プロジェクト推進における組織的対応の必要性

今回の活動は、VE 協会スタッフと東日本支部メンバーでチームを組み推進したが、個人の対応に頼るところが多かった。プロジェクト活動における組織的対応に関し、具体的な強化策が必要と考える。

### (2) 活動推進の速度向上とスケジュール管理の必要性

活動は、メンバー各人が日常業務繁忙の中、スケジュールを調整して進めていたため、打ち合わせの日程が限られ、特に企画段階での時間を要した。活動速度の向上策を考えると共に、適切なスケジュールの設定とスケジュールの管理体制が必要と考える。

最後に、本コラボレーション推進にあたりご協力頂いた WF 協会代表タカコ ナカムラ様はじめ、情報を提供頂いた WF 協会関係者の方々にお礼申し上げます。

### 【参考資料】

- ・ ホールフード協会サイト <http://whole-food.jp/index.html>



ホールフードスクール タカコ ナカムラ セレクトショップ ほんじよるの



| 愛護生・修了生のみなさまへ | 団体・法人のみなさまへ | 協会の活動 | 協会のご案内 |



## 食卓も畑も海も すべてつながっています。

「Whole Food (ホールフード)」、直訳すると「まるごとの食べもの」。  
健康で豊かな生活に「食べること」はとても重要です。  
自然の恵みを、感謝を込めて、まるごと無駄なくいただく、  
それが自然の摂理にかなった食のあり方ではないでしょうか。

「ホールフード」それは、有機野菜やオーガニック食品を無駄なく食べる健康生活、ではありません。  
「食」を出発点に、「健康」「暮らし」「環境」を考え、新しい価値観を発信する言葉。  
それは、身の回りのゴミや洗剤、ちょっと離れて川や土や農業、もっと大きく食物連鎖や地球環境、  
そういうことを無意識に考え行動する「知的なライフスタイル」のことです。



【イベント】5月30日～ホールフード協会×cookingLabo「北斗の森」田んぼプロジェクト2015  
→詳細はこちら

»過去のお知らせ



→ご購入はこちら



ホールフード協会は「食卓の日」を応援しています！